

## (19) キジハタのブランド化に関する調査研究

### 予算

運営費交付金

### 概要

大阪府ではキジハタのブランド化を目指しており、そのための調査研究が研究所の役割となっている。平成28年度は健全種苗生産技術開発、価格向上対策、ブランド化支援を行った。健全種苗生産技術開発では形態異常防除対策として、開鰾時期と形態異常との関係を調べた。その結果、開鰾時期が遅いほど形態異常率が低く、関連性が示唆された。価格向上対策としてキジハタに特徴的だと考えられるコラーゲン量に注目し、他の白身魚との比較を行った。その結果、マダイよりは多いものの、トラフグやヒラメ、スズキ、マコガレイと同程度であることが明らかとなった。ブランド化支援としてブランド基準に必要と考えられる大きさ別の脂質含有量を調べた。その結果、全長300mm以下の個体ではばらつきが多いが、それ以上では5%前後で安定、全長400mm以上では大きいほど高くなる傾向が見られた。また、脂質含有量が高いほど美味しく感じるかどうかについて刺身での食味官能試験を行ったが、明瞭な結果は得られなかった。

### 担当者

辻村浩隆、鈴木達也